

同大のエジプト人教授手記

闘う若者らに涙止まらず

エジプトの大統領退陣要求デモは発生から2週間以上たった。大統領は辞任したが、今後の見通しは不透明だ。日本で暮らすエジプト人の同志社大学教授サミール・ヌーハさんのもとにはデモ発生直後から、市民が撮影したとされる多数の現場写真が届いた。多くは国際報道機関によっても伝えられた。以下は、届いた写真を見て「涙が止まらなかった」というヌーハさんが寄せた手記だ。

祖国から続々写真、ビデオ届く

この1月25日、エジプトで起きているデモについて知らせるメールを受けて知れるメールを受け取った。ムバラク政権に反対を叫ぶ若者たちの写真とビデオが付いていた。はじめは冗談だろうと思った。信じられなかつた。

友人たちにメールを次々と送り、電話でも問い合わせた。「革命が起きている。本当だ!」と分かった。若者を中心とした市民の改革要求を、ムバラク政権はあらゆる手で封じ込め、痛めつけようとしている。だが、若者たちは「民衆が政権を転覆させる」と抵抗し、世界中を驚かせた。私はエジプト各地の大

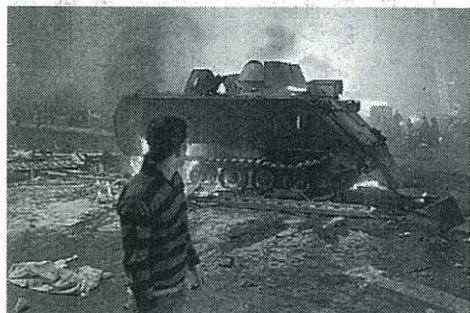
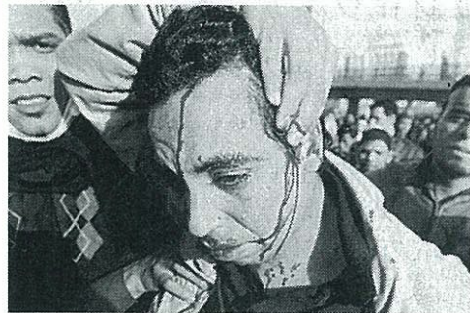
友人たちにメールを次々と送り、電話でも問い合わせた。「革命が起きている。本当だ!」と分かった。若者を中心とした市民の改革要求を、ムバラク政権はあらゆる手で封じ込め、痛めつけようとしている。だが、若者たちは「民衆が政権を転覆させる」と抵抗し、世界中を驚かせた。私はエジプト各地の大

学を知り合いとメールのやりとりを開始した。だが、政府はインターネットを止め、数日間国内からの情報は途絶えた。ネットが再びつながった時、これらの写真だけでなく、動画までも一挙に届いた。信じられない光景だった。涙が止まらなかった。いまでも、これらの写真を見ると涙が出る。こんな殺りくが祖国エジプトで起きるなんて。若者や民主化活動家、一般の市民が撮った写真だという。彼らはそうすること、革命を支えようとした。

アレクサンドリア大学教授でカイロに住む友人は、「今、タハリール広場で政権打倒を叫んでいる」というメールをくれた。別の大学の友人は、

犠牲者たちの写真を送ってくれた。さまざまな人が多くの写真を寄せてくれた。私は大きな衝撃を受けた。知っているかぎりの友人に写真を送り、「どうして罪もない若者が殺されなければならないのか!」と尋ねずにはいられなかった。

日本の市民の皆さん。日本政府にエジプトの傷ついた若者たちを助けるよう、要請してください。メディアは若者たちの要求―検閲の禁止、非常事態法解除―について、もっと報道してください! (同志社大教授 サミール・ヌーハ、原文は英語)



アレクサンドリア大学教授でカイロに住む友人は、「今、タハリール広場で政権打倒を叫んでいる」というメールをくれた。別の大学の友人は、

46年12月28日エジプト生まれ。カイロ大卒。2008年から同志社大教授。専門はアラブイスラムと日本の異文化交流。(共同)

(共同)